

# 庭池で生息するモリアオガエル

大賀 二郎

## はじめに

モリアオガエル (*Rhacophorus arboreus*) は日本の固有種で、本州、四国、九州の山間部に生息し、樹上に産卵する習性から注目されている。

その生態が初めて紹介されたのは、八甲田山、十和田湖、天城山八丁池、鳳来寺山などの森林地域である。

岩手県大場沼と福島県平伏沼の生息地では、国の天然記念物になっている。その他県指定の天然記念物になっているところもある。

近郊では鞍馬山、高雄、比叡山、比良山、京都市北山、奈良公園などで、兵庫県下では城崎郡、宍粟郡、氷上郡、三田市などが局地的な生息地として知られている。

近年、都市周辺でも分布域を広めており、京都東山の寺院の泉水、神戸市森林公園内、神戸市北野町治水ダム付近などでも卵塊がみられるようになった。

モリアオガエルの幼生は、落葉が堆積するような止水中でも生存可能である。天敵のヤマカガシ、モズなど、それに幼生期の天敵イモリなどがいなければ、相当な繁殖力をもつものと思われる。市域にもみられるようになったのはこのことが一因であろう。

## 庭池での観察例

私の山荘(西宮市甲陽園目神山町20-19)の庭池付近でも1990年6月モリアオガエルの卵塊を見つけてから、以降毎年同時期に産卵が観察される。ただし、これは自然状態で生息するようになったのではなく、2年前の1988年ひとつの卵塊から発生したのが定着したものである。この経緯はつぎのとおりである。

1988年6月11日、京都府下高尾付近の清滝川沿いの水溜まりで落下していたひとつの卵塊を持ち帰り、庭池の上の枝に結び付けておいた。

同年7月初旬、池中をオタマジャクシが泳いでいるのを確認した。

1990年6月6日、その後2年あまり消息はなく、死滅したものと思っていたが、突然カエルの鳴声を聞いた。モリアオガエルが定着したことを確認した。相当数の個体がい、8月初旬までその合唱が聞かれた。

同年6月21日、樹上に卵塊を発見、初旬までに6個が産みつけられていた。卵塊1個のオタマジャクシは、天

敵から守るため人工飼育し、他は池中で自然生息に任せ

た。  
同年6月30日、神戸新聞にモリアオガエルの産卵が紹介された。

1991年4月下旬、かすかな鳴声を聞く。6月は鳴声のピークとなる。この年は10個の卵塊を確認した。

1992年、この年は12個の卵塊を確認した。

1993年、この年は15個の卵塊を確認した。

1994年、この年は20個の卵塊を確認した。

同年6月16日、神戸市須磨寺塔頭正覚院(三浦真蔵住職)の泉水に120匹のオタマジャクシを放流した。

同年6月18日、神戸新聞に同上の記事が報道された。

同年7月24日、正覚院泉水に更に200匹の成体になった直後の個体を放った。

## モリアオガエルの習性

庭池で生息しているモリアオガエルの習性で、気付いた点はつぎのとおりである。

1. モリアオガエルが鳴き出すのは、早いもので4月下旬、6月中旬が絶頂期、8月上旬でおおむね終わる。稀に10月下旬にかすかに鳴くこともある。
2. 多数が一斉に鳴き出す習性がある。2~3分間鳴くとそろって止み、30分程の間隔を置いて再び鳴き始める。時間帯では夕刻から夜11時頃までが盛りである。雨や曇天の湿度の高いときは、それだけ回数が多い。
3. 交接と産卵は通常深夜に行われる。雄は水中で雌の背に乗り、そのまま樹上の枝などに上がる。多数の雄がついてきて、雌の背にまといつく。雌が水状の塊を放出すると、雄は後脚でこれをかきまぜ、15cm程の白黄色の泡の塊ができる。
4. 卵塊は殆どが水面上150cm程の高さに産みつけられる。稀に300cm近くのものもある。水面に接したカキツバタの葉の場合もあった。産みつける木の種類を問わない。コンクリートの壁の場合もある。
5. 産卵の最盛期は6月20日頃である。近郊でホタルが交尾する時期と一致する。
6. 1つの卵塊には約400~500の卵がおさまっている。
7. 水中に大きな魚がいるところは、産卵を避ける傾向がある。

8. 卵塊は2週間程すると、オタマジャクシが下部の方に寄ってきて、順次水面に落下する。よく計測されていて、必ず水中に落ちる。
9. 卵塊の中には少数の未受精卵が含まれている。卵塊全体が未受精または死滅していることがある。
10. オタマジャクシの出ってしまった卵塊は、雨に打たれて次第に消滅する。乾燥するとそのまま標本になる。
11. 成体になった個体は、その年の越冬時には2cmぐらいに成長している。
12. 2年を経過した成体は雄で70mm、雌で90mmぐらいになる。成体の体色はほとんどが青緑色で、なかには黒い雲状模様があるものもある。

### おわりに

以上はモリアオガエルが住宅地の環境に定着した一事例である。敷地内には10㎡程度の人口池が3つある。うちひとつの池はソウギョ、コイ、フナなどの体長20cm程度のものが生息している。水草はない。他の2つの池は小魚がいて、水中にはカナダモ、水面には部分的にサンショウモが浮いている。池のまわりはクマザサやツワブキが茂っている。池の近くにはアメリカハナミズキ、ホオノキ、スモモが池の上に枝を伸ばしている。

モリアオガエルは一般的に深山に生息するという認識があるが、環境さえ整えば、容易に繁殖するものと思われる。人為的に繁殖させることは、生態系の上から異論があるかも知れない。しかしモリアオガエルは池水から遠く離れて生活圏を広げることはできない。

モリアオガエルの鳴き声は、決して耳障りなものではない。その卵塊には夢幻的なものがある。モリアオガエルがカジカやホタルとともに、私たちの身近な風物詩として親しまれることを願うものである。

### 参考文献

- 手島直行 (1980) モリアオガエル アニマNo.87 平凡社  
 仲井啓郎 (1976) 丹波のモリアオガエルとウシガエル  
 新・兵庫の生物 兵庫県生物学会編



写真2 モリアオガエルの産卵状況



写真3 同卵塊



写真1 モリアオガエル



写真4 同オタマジャクシ